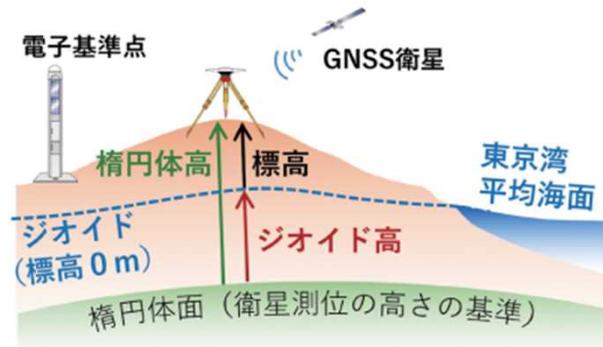


# 高精度・迅速・安定的な衛星測位へ

## 標高0mの基準の整備

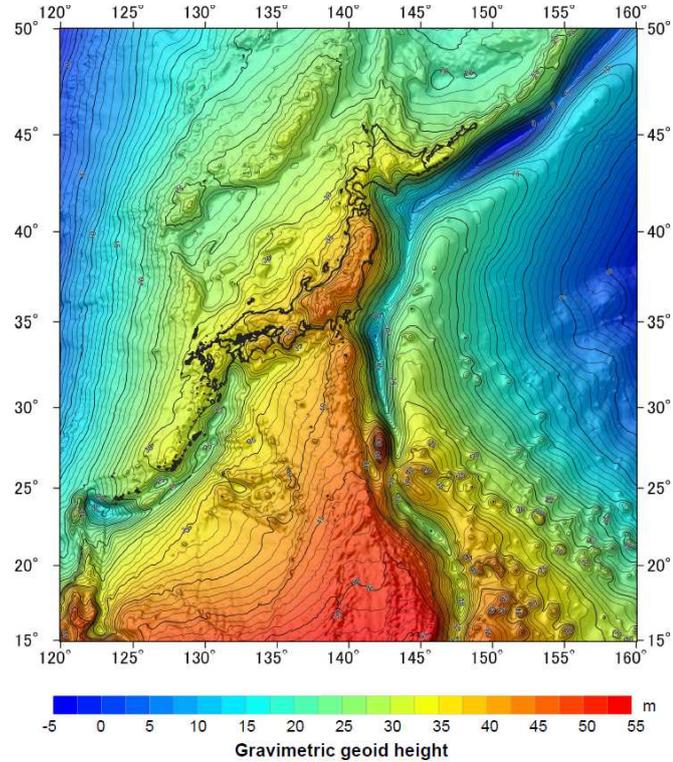
衛星測位で分かる高さは楕円体高で、これからジオイド高（標高0mの基準）を引くと標高を得ることができます。



標高0mの基準は重力から計算できるため、全国の重力を航空機で測定することで、新しい標高0mの基準を全国どこでも同等の精度で構築できるようになりました。

構築した標高0mの基準は、今年度中に試験公開します。これにより、衛星測位を用いることで、迅速に高精度な標高が分かり、効率的な測量や迅速な復旧・復興への対応ができるようになります。

新しい標高0mの基準の起伏（イメージ）



## GNSS衛星の軌道情報(精密暦)の提供

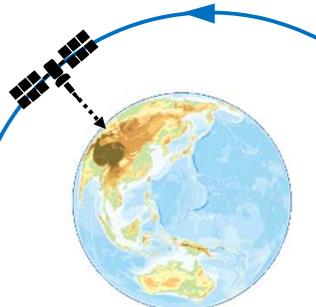
GNSS衛星（GPS衛星や準天頂衛星「みちびき」をはじめとした測位衛星）による測位では、衛星の軌道情報（暦:れき）を基に地上の位置を決定します。精度の高い位置決定には、精度の高い軌道情報である精密暦が必要不可欠です。

この度、JAXAの協力を得て、**精密暦を我が国独自の方法で安定的に生成できるようになりました**。本取組は、現在最も高精度な精密暦を生成している国際GNSS事業※に認められています。

この取組により、**各種測量や高精度測位の基礎となる我が国の正確な位置を国内で自律的に維持・管理することが期待**されます。

GNSS衛星  
（GPS衛星、準天頂衛星等）

衛星軌道情報（暦）



※ 国際GNSS事業：地球上の位置の基準の維持・構築などを目的として、国際測地学協会（IAG）の下に設置された4つの宇宙測地技術に関する国際組織の一つ。